

都道府県名	山形県	授与年度	平成 13 年度
学校種	高等学校	担当する教科等	柔道
教授内容	柔道		
教諭の前職等	会社員・東北支店長	年齢	49 歳
内 容	<p>対象学年 2 学年 授業時間数（週コマ数） 4 時間</p> <p>1. 授与・採用経緯等</p> <p>柔道の授業は、昭和33年学校創立とともに開始された。柔道部も同時に創部され、以来40数年の歴史がある。これまで体育(柔道)教科担任と柔道部顧問の教諭が平成15年5月1日付で退職し、柔道を専門的に指導する教員に不足が生じたため、柔道に関し専門的な知識と長い指導力を有し、社会的信用も厚い本校卒業の当該者に特別免許状を授与し、同氏の採用が必要不可欠であるため就任を要請した。</p> <p>自ら道場を持つ当該者は、本校在学中の昭和45年8月、和歌山県で開催された全国高等学校総合体育大会(インターハイ)で重量級個人優勝の経歴を持ち、既に35年を越える柔道歴と柔道7段や審判B級ライセンス認定を有する指導者である。地区の柔道団体理事長として柔道をとおした青少年に対する指導・育成の理念は関係者から高く評価されている。</p>		
	<p>2. 具体的教授内容・活動実績</p> <p>・課題の設定</p> <p>国際化の進展に伴い、日本人の心や日本文化の継承が求められており、武道の学習をとおしてその精神、思いやり、やさしさ、正義感、服従、自身の危機管理、社会貢献や寄与できる人間の育成を課題とする授業。</p> <p>・授業内容・指導内容</p> <p>授業の一環として行なわれる柔道であることを踏まえ、相手に対する礼法、敬愛する心が形となって外に現れたものの説明や理解・定着。全員が立礼・座礼を通して、心・技・体の習得ができること。</p> <p>・活動実績</p> <p>当該教諭の着任以来、柔道を選択する生徒の増加が見られる。また、一時衰退した柔道部の活動に復活の兆しとして、団体及び個人で地区や県の高校総合体育大会、東北大会・全国大会で活躍する選手が見られることは同氏の実績である。</p> <p>3. 効果・課題</p> <p>・効果:柔道に対する関心の高まりから、柔道を選択する生徒の増加や柔道部の戦績内容の向上に効果が見られる。また、柔道部員の学習意欲が高まり、大学進学を希望する生徒が増加した。</p> <p>・課題:社会人であることから、授業時間(持ち時間)、各種大会・遠征に同行が難しいなどの制約がある。</p> <p>4. その他</p> <p>社会人であることから、持ち時間は少ないものの、放課後の部活動や大会前の強化練習等はほぼ毎日勤務している。</p>		

